

# Newsletter of

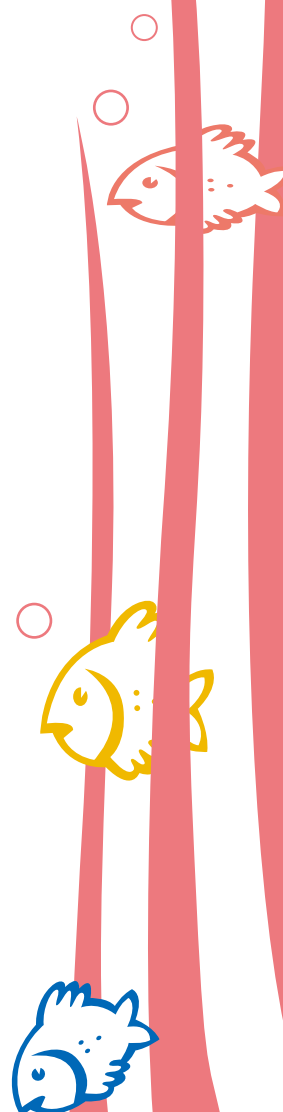
日本サンゴ礁学会ニュースレター  
2000 Vol. 8  
Aug.

# J C R S Japanese Coral Reef Society

**JCRS**  
Japanese Coral Reef  
Society

日本サンゴ礁学会第3回大会  
および  
公開シンポジウム特集

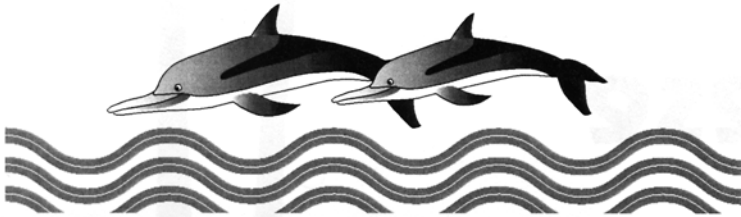
Newsletter of Japanese Coral Reef Society Vol.8



## Contents

## 目次

- 2000年度第3回大会および公開シンポジウムのご案内  
..... p. 2 ~ 3
- 会場案内 ..... p. 3
- 口頭発表プログラム ..... p. 3 ~ 5
- ポスター発表プログラム ..... p. 5 ~ 6
- 学会からのご案内 ..... p. 6
- 国際サンゴ礁シンポジウムの活動 ..... p. 7



## 2000年度第3回大会 および 公開シンポジウムのご案内

日本サンゴ礁学会第3回大会（2000/2001年度大会）を慶応義塾大学（東京）にて下記要領で開催します。皆様のご参加とご協力を何卒よろしくお願い致します。

大会実行委員長：近森 正

**1. 期 日：2000年 9月22日（金）～ 9月24日（日）**

**2. 会 場：慶応義塾大学三田キャンパス  
三田北新館ホール**

（JR山手線 田町駅下車 三田口から歩いて8分、次頁の案内図参照）

### 3. スケジュール

- 9月21日（木）15:00～18:00 評議員会
- 9月22日（金）
  - 10:00～12:00 総会
  - 12:00～13:00 昼休み
  - 12:00～17:20 一般発表（口頭発表）
  - 18:00～20:00 懇親会
- 9月23日（土・祝日）
  - 9:30～10:30 特別セッション  
（仮題：サンゴ礁研究の国際化について）
  - 10:30～12:30 一般発表（ポスター）
  - 14:00～17:00 公開シンポジウム  
（基調講演およびパネルディスカッション）
- 9月24日（日）
  - 9:30～12:10 一般発表（口頭発表）
  - 12:10～13:00 昼休み
  - 13:00～17:00 一般発表（口頭発表）

なお、大会関連の最新情報を下記の学会Home Pageに掲載しますので、随時ご確認下さい。

<<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jcrs/index.html>>

### 4. 公開シンポジウム

（日本サンゴ礁学会、世界サンゴ礁保護協会(WCCS)共催）

四月の「太平洋島サミット」の宣言にも取り上げられたように、地球温暖化によって世界中のサンゴ礁が、今、消滅の危機にあります。また、産業や経済の激しい変化によって、長い間サンゴ礁と共に生きてきた人々の暮らしも、今、大きく変貌しています。多様ないのちをはぐくみ、人々に恵みをもたらしてきた美しいサンゴ礁と、そこに暮らす人々の文化や伝統を、これからの人たちにも残し伝えていくために、私達は何が出来るのか、どんな行動をすればよいか、を皆様方とともに考えてみたいと思っています。

日本サンゴ礁学会第3回大会実行委員長：近森 正

**■期 日：9月23日（土）14:00～17:00**

**公開シンポジウム（参加費無料）**

**■場 所：会 場：慶応義塾大学三田キャンパス  
三田北新館ホール**

○基調講演：「サンゴ礁の人々と暮らし：地球温暖化と経済発展がもたらすもの」（同時通訳付）

“People's life on coral reefs --Threats of global warming and socio-economic impact”

○国際サンゴ礁学会会長：Dr. Terry Done（オーストラリア）

○パネルディスカッション：「私達をめぐるサンゴ礁―特に社会、経済、文化の見地から」

○司 会：大森 信

○パネラー：近森 正、秋道智弥、木村 匡、広瀬慎美子 ほか

### 5. 日本サンゴ礁学会第3回大会参加について

◆参加登録：参加者名簿を作成しますので、お手数ですが、参加者一人毎に e-mail<[coral@etl.go.jp](mailto:coral@etl.go.jp)>あるいは fax(0298-61-5806) をお送り下さい。

1) 参加者氏名・所 属

2) 参加者連絡先：（勤務先・自宅）住所、電話、Fax

3) 参加内容：大会のみ、懇親会（参加・不参加）

4) 参加費の取り扱い：郵便振替（9月15日締切）

or 大会当日支払い

（大会当日は受付が混雑する可能性がありますのでなるべく郵便振替をお願いします。なお、9月16日以降は入金確認ができませんので、当日、会場にてお支払い下さい）

◆参加登録料：一 般 5,000 円

学 生 2,500 円

懇親会費 5,000 円

◆参加費等の振り込みについて

郵便振替口座番号：00150-1-541757

口座名称：日本サンゴ礁学会第3回大会

前回とは違い、振り込み料も安く、通信欄がありますので必要事項（氏名・所属、一般・学生・懇親会参加の有無などの内訳）を必ず通信欄に記入して下さい。複数の方がまとめて振り込まれても結構です。

# 日本サンゴ礁学会 第3回大会 (2000/2001年度大会)

## 会場案内

### 【JR田町駅からの案内図】

<<http://www.mita.keio.ac.jp/access-j.html>> 参照

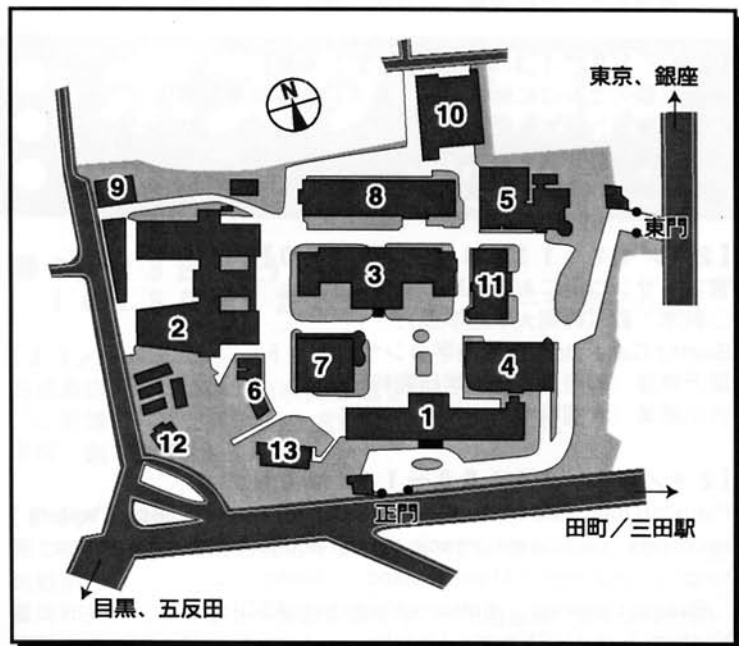
(JR田町駅は、東京駅から山手線あるいは京浜東北線で品川方面、約10分です)



### 【慶応義塾大学三田キャンパス地図】

<<http://www.mita.keio.ac.jp/map-j.html>> 参照

\*会場の北新館は图中10番の建物です



1. 南校舎
2. 西校舎：生協食堂・山食
3. 第一校舎
4. 図書館（新館）
5. 図書館（旧館）：福沢研究センター、斯道文庫
6. 第二研究室：国際センター、言語文化研究所
7. 大学院校舎
8. 研究室
9. 西新棟：体育会、アート・センター
10. 北新館：大講堂、会議室、保健管理センター、ファカルティクラブ
11. 塾監局
12. 社会学研究科実習室
13. 三田演説館

# JCRS プログラム 2000

## ● 9月21日 (木)

15:00~18:00 評議員会

## ● 9月22日 (金)

10:00~12:00 総会  
12:00~13:00 昼休み  
13:00~17:20 一般発表 (12件)  
18:00~20:00 懇親会

## ● 9月23日 (土・祝日)

9:30~10:30 特別セッション  
(仮題：サンゴ礁研究の国際化について)  
10:30~12:30 一般発表 (ポスター30件)  
14:00~17:00 公開シンポジウム (参加費無料)

◆基調講演 「サンゴ礁の人々と暮らし：地球温暖化と経済発展がもたらすもの」

“People's life on coral reefs --Threats of global warming and socio-economic impact”

国際サンゴ礁学会会長：Dr. Terry Done (オーストラリア)

◆パネルディスカッション 「私達をめぐるサンゴ礁—特に社会、経済、文化の見地から」

司会：大森 信、討論者 近森 正、秋道智弥、木村 匡、広瀬慎美子ほか

## ● 9月24日 (日)

9:30~12:10 一般発表 (8件)  
12:10~13:00 昼休み  
13:00~17:00 一般発表 (11件)

# 口頭発表 プログラム

## ● 9月22日 (金)

13:00~17:20 一般発表 (12件)

### 【22/1 13:00~13:20】

サンゴ礁石灰岩に封入されるサンゴ礁粘土(Lime clay)の成因と役割  
○山本 聡 (琉球大学理学部物質地球科学科地学系)

### 【22/2 13:20~13:40】

中部グレートバリアリーフのハマサンゴからみた陸源物質の影響域  
○菅 浩伸、David Hopley、Peter Isdale、Cecily E. Rasmussen

### 【22/3 13:40~14:00】

バハマ炭酸塩プラットフォームの前進性堆積シークエンスとその縁辺部における堆積変換点  
○荒井晃作、佐藤時幸 (地質調査所、秋田大学)

### 【22/4 14:00~14:20】

沖縄島における完新世サンゴ礁の発達過程と、海面変動、地殻変動との相互関係  
○河名俊男 (琉球大学教育学部)、菅 浩伸 (岡山大学教育学部)

【22/5 14:20~14:40】

石垣島白保アオサンゴ群集の成立過程

○茅根 創、波利井佐紀（東京大学理学系地球惑星科学）、  
山野博哉（国立環境研）

【22/6 14:40~15:00】

サンゴ群集のダイナミクスと種組成の決定要因

○向草世香（九大、理）、酒井一彦（琉大、熱生圏センター）、  
巖佐 庸（九大、理）

15:00~15:20 休憩

【22/7 15:20~15:40】

1998年の白化が西表島網取湾のサンゴ群集に与えた影響  
横地洋之（東海大、海洋研）

【22/8 15:40~16:00】

The effect of seawater temperature on larval settlement rate of  
broadcast spawning corals.

○野澤洋耕、  
Peter Harrison（Southern Cross University、Australia）

【22/9 16:00~16:20】

沖縄本島南西海域におけるサンゴ幼生広域輸送過程の解明  
灘岡和夫（東京工業大学）、二瓶泰雄（東京理科大学）、  
○花田 岳（東京工業大学）、岩尾研二（阿嘉島臨海研究所）、  
池間健晴（亜熱帯総合研究所）、鹿熊信一郎（沖縄県水産試験場）、  
藤井智史、佐藤健治（通総研沖縄電波観測所）

【22/10 16:20~16:40】

ケイ酸カルシウムチップを用いたクシハダミドリイシ種苗の作成  
○林 徹、中地シュウ、岩瀬文人（黒潮生物研究財団）

【22/11 16:40~17:00】

発表題目：サンゴ礁診断技術  
○野崎 健、加藤 健、根岸 明（電子技術総合研究所）、  
茅根 創（東京大学）

【22/12 17:00~17:20】

サンゴ礁によるCO2固定バイオリアクターの概念  
○池田 穰（ハザマ）、宮島利宏（東大、海洋研）、  
野崎 健（電総研）、阿部 理（名大、大水研）、  
茅根 創（東大、理、科学技術振興事業団）

●9月24日（日）

9:30~12:10 一般発表（8件）

【24/1 9:30~9:50】

クロチョウガイの利用価値と環礁の先史居住  
～北部クック諸島プカプカ環礁出土の釣り針～  
○山口 徹（千葉商科大学政策情報学部）

【24/2 9:50~10:10】

サンゴ礁利用者の行動、動機、態度：グレートバリアリーフのスピアーフィッシャーへのスペシャリゼーション・コンセプトの応用  
○中谷誠治（〔財〕亜熱帯総合研究所）

【24/3 10:10~10:30】

イノー環境の多様性をどう捉えるか  
○目崎茂和（南山大学総合政策学部）、長谷川均（国土館大学）、  
中井達郎（〔財〕日本自然保護協会）、  
星野 真（〔財〕世界自然保護基金日本委員会）

【24/4 10:30~10:50】

小笠原諸島煤島植生回復事業における造礁サンゴ類を中心とした  
海底環境モニタリング  
～ノヤギ駆除直後の海底環境の現況について～  
○稲葉 慎（小笠原海洋センター）、鈴木 創（小笠原自然文化研究所）

【24/5 10:50~11:10】

サンゴ種苗生産技術の開発（1）  
○服田昌之（国立遺伝学研究所）、岩尾研二（阿嘉島臨海研究所）

【24/6 11:10~11:30】

Acropora muricataの最適移植方法  
○大久保奈弥、大森 信（東京水産大学）

【24/7 11:30~11:50】

平良港におけるサンゴ群集の移築等の環境配慮実験  
石井正樹、前幸地紀和、  
大村 誠（沖縄開発庁沖縄総合事務局平良港湾工事事務所）、  
○山本秀一、高橋由浩、田村圭一（株式会社エコー環境、計画部）

【24/8 11:50~12:10】

駿河湾におけるエダミドリイシ群集の人為的復元  
○小松恒久、上野信平（東海大、海洋）

12:10~13:00 昼休み

13:00~17:00 一般発表（11件）

【24/9 13:00~13:20】

rRNAのITS1領域を利用した造礁サンゴに共生する褐虫藻の系統解  
析の試み  
○広瀬慎美子、日高道雄（琉球大、理工、海洋環境）

【24/10 13:20~13:40】

培養実験のサンゴに対するストレスによる栄養塩排出  
○黒沢勝彦、鈴木 款（静岡大学）、深見公雄（高知大学）、  
大森 保（琉球大学）、ベアトリス カサレト、  
吉田勝美（LASC）、掛沢雅章（NEDO）、山田興一（信州大学）

【24/11 13:40~14:00】

宮古島サンゴ礁における有機物のC/N比  
○鈴木 款（静岡大学理学部）、  
Beatriz Casareto（水圏科学コンサルタント）、  
黒沢勝彦（静岡大学理工学研究科）、  
吉田勝美（水圏科学コンサルタント）

【24/12 14:00~14:20】

Plankton mediated exchanges between reefs and adjacent waters  
exchange / particulate organic carbon budget and POC flux in a  
fringing coral reef at Miyako Island, Japan  
○Beatriz Casareto、Katsumi Yoshida（LASC）、  
Yoshimi Suzuki（Shizuoka Univ.）

【24/13 14:20~14:40】

温帯域サンゴ群集における一次生産力の推定  
○中村恵理子、田中次郎（東水大、藻類）、  
横濱康繼（志津川町自然セ）

【24/14 14:40~15:00】

石垣島白保サンゴ礁海水のCO2変動と生物群集代謝  
○茅根 創（東京大学）、工藤節子、秦 浩司、  
村本明子（科学技術振興事業団）、山野博哉（国立環境研）、  
野崎 健、加藤 健、根岸 明（電総研）、斉藤紘史（計量研）

**【24/15 15:00~15:20】**

石垣島白保における海草の成長量

○田中義幸、茅根 創（東京大学、理、地球惑星科学）

**15:20~15:40 休 憩****【24/16 15:40~16:00】**

外洋影響を考慮した沿岸海水流動計算手法の開発

○二瓶泰雄（東京理科大学）、灘岡和夫（東京工業大学）、熊野良子（福井県）

**【24/17 16:00~16:20】**

黒潮系暖水波及過程への陸棚効果に起因する沖縄周辺サンゴ礁水温環境の海域差について

灘岡和夫、○若木研水（東京工業大学）、二瓶泰雄（東京理科大学）、熊野良子（福井県）、鹿熊信一郎、諸見里聡（沖縄県水産試験場）、大見謝辰夫（沖縄県衛生環境研究所）、岩尾研二、下池和幸、谷口洋基（阿嘉島臨海研究所）、中野義勝（琉球大学）、池間健晴（亜熱帯総合研究所）

**【24/18 16:20~16:40】**

石西礁湖における1999年春季の水塊構造について

○中村 仁、古島靖夫、加藤 聡（海洋科学技術センター）、田中紀夫（マリンワーク、ジャパン）

**【24/19 16:40~17:00】**

石西礁湖における動物プランクトンの季節変動

○加藤 聡、中村 仁、古島靖夫（海洋科学技術センター）

# ポスター発表 プログラム

**● 9月23日（土）****10:30~12:30（ポスター発表30件）****【23/P1】**

石垣島白保サンゴ礁の海水流動-第2報-

○山野博哉（国立環境研）、宮島利宏（東大海洋研）、茅根 創（東京大）

**【23/P2】**

異なる海域条件下におけるサンゴ礁内外の水環境特性に関する現地観測

灘岡和夫、○若木研水（東京工業大学）、二瓶泰雄（東京理科大学）、熊野良子（福井県）、岩尾研二、下池和幸、谷口洋基（阿嘉島臨海研究所）、大見謝辰夫（沖縄県衛生環境研究所）、鹿熊信一郎（沖縄県水産試験場）、池間健晴（亜熱帯総合研究所）

**【23/P3】**

沖縄島、残波岬における1998年白化現象前後のサンゴ群集の変化について

○勝中浩司（琉球大学大学院）

**【23/P4】**

脂質組成から見た白化サンゴ

○山城秀之（琉球大学RI施設）、屋宏典、翁長恭子、古賀大也（琉球大学農学部）

**【23/P5】**

サンゴの赤土汚染及び白化耐性比較

○大見謝辰男、仲宗根一哉、満本裕彰（沖縄県衛生環境研究所赤土研究室）、上原睦男、大城哲（（株）沖縄環境保全研究所）

**【23/P6】**

石垣島白保海域の赤土汚染とサンゴ礁の現況（第2報）

○満本裕彰、大見謝辰男（沖縄県衛生環境研究所）、小林 孝（サンゴ礁保護研究センター）

**【23/P7】**

海域における赤土汚染の長期的モニタリング

○仲宗根一哉、大見謝辰男、満本裕彰（沖縄県衛生環境研究所）、上原睦男、大城哲（（株）沖縄環境保全研究所）

**【23/P8】**

赤土がハナヤサイサンゴの遺伝子発現に及ぼす影響

○橋本和正（西水研石垣）、萱野英子（東大工）、萱野暁明（農水省農林水産技術会議事務局）、澁野拓郎（西水研石垣）、阿部寧（西水研石垣）、高田宜武（西水研石垣）

**【23/P9】**Changes in zooxanthellae body type ratios in *Zoanthus* sp. due to light and temperature influences James Davis Reimer, Kagoshima Daigaku Daigakuin, cience and Engineering Faculty (Rikogakubu), Department of Developmental Biology (Seimeikagakka)**【23/P10】**

サンゴの解離細胞を用いた、種間および種内接触反応解析の試み

○大城稚子、日高道雄（琉球大、理工、海洋環境）

**【23/P11】**

石垣島浦底湾におけるミドリイシ類人工着生幼体の生残と成長

○林原 毅、福岡弘紀、佐野元彦、玉城泉也、皆川 恵（西海水研、石垣）

**【23/P12】**

Montipora aequituberculataにおける加入と成長

○長田智史、Robert van Woessik

**【23/P13】**

石垣島白保海域におけるアオサンゴの加入過程

○波利井佐紀、茅根 創（東京大学理学系地球惑星科学）、林原 毅（西海水研、石垣）

**【23/P14】**

南西諸島における造礁サンゴ群集の多様性構造

○藤岡義三（水産庁中央水産研究所）

**【23/P15】**

多時期衛星画像を用いた石垣島サンゴ礁内の底質指標図の作成

松永恒雄、梅干野晃、○水上陽誠（東京工業大学 総合理工学研究科）

**【23/P16】**

粘液膜に包んで卵保護をするタヤマヤスリサンゴ

Pseudosiderastrea tayamai

○中野義勝（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所）



### 【23/P17】

閉鎖循環システムによるサンゴ飼育について

○日比野浩平（関西総合環境センター 宮津事務所）、  
松本達志（関西総合環境センター 環境評価部）、  
中村三知（関西電力株式会社 立地環境本部）

### 【23/P18】

サンゴ礁における大気-海洋間のCO<sub>2</sub>フラックス

○藤村弘行1、北田幸男2、宮平こずえ3、真栄平司4、大森保2  
（1琉球大、院、理工、海洋環境、2琉球大、院、理、海洋自然、  
3琉球大、院、理工、海洋自然、4琉球大、院、理、化学）

### 【23/P19】

パラオサンゴ礁における潜水型pCO<sub>2</sub>長期観測装置の保守管理

○加藤健、根岸 明、野崎 健（電子技術総合研究所）、  
茅根 創（東京大学）、秦 浩志（科学技術振興事業団）、  
津田雅也、紀本英志（紀本電子工業）、川手幸一、  
秋元不二雄（芙蓉海洋開発）

### 【23/P20】

可搬型pCO<sub>2</sub>等モニタリングシステム

○根岸 明、加藤 健、野崎 健（電子技術総合研究所）、  
茅根 創（東京大学）、津田雅也、紀本英志（紀本電子工業）

### 【23/P21】

石垣島白保サンゴ礁におけるDOの連続計測による生産量の見積もり

○秦浩司、村本明子（科学技術振興事業団）、  
阿部 理（名古屋大、大気水圏科学研究所）、  
宮島利宏（東京大、海洋研究所）、野崎 健、根岸 明、  
加藤 健（電子技術総合研究所）、山野博哉（国立環境研究所）、  
茅根 創（東京大、理、地球惑星科学）

### 【23/P22】

阿嘉島サンゴ礁海水中における<sup>210</sup>Poと<sup>210</sup>Pbの収支

○立田 稔（電中研）、岩尾研二、下池和幸、大矢正樹、  
谷口洋基（AMSL）

### 【23/P23】

炭素同位体からみたサンゴの炭素循環

○宮平こずえ、藤村弘行（琉球大学大学院 理工学研究科）、  
大森 保（琉球大学 理学部）

### 【23/P24】

石垣島におけるサンゴ礁地形と生物侵食の帯状構造

○鈴木倫太郎（駒澤大学大学院）、菅 浩伸（岡山大学）

### 【23/P25】

硬骨海綿硬組織による古環境解析：C-13/C-12比の経年変化

○森矛都美（琉球大学）、大森 保（琉球大学）、  
玉城裕一（琉球大学）、松本英二、阿部 理（名古屋大学）

### 【23/P26】

サンゴ礁における縄張り性魚類による生息場所の条件付けが底生動物群集に与える影響

○畑 啓生、西平守孝（東北大学大学院理学研究科）

### 【23/P27】

ゼニイシの生態

○藤田和彦（阿嘉島臨海研究所）

### 【23/P28】

海草藻場の評価手法に関する研究 ―水中走行ビデオシステム―

○大谷謙仁、根岸 明、加藤 健、野崎 健（電子技術総合研究所）、  
山室真澄、西村清和、岸本清行（地質調査所）皆川 恵、  
林原 毅、佐野元彦、玉城泉也（水産庁西海区水産研究所）

### 【23/P29】

財団法人 黒潮生物研究財団の設立と研究所の建設

○岩瀬文人

### 【23/P30】

リーフチェックへの取り組み

○安部真理子、渡辺暢雄、宮本育昌、  
佐野日止史（コーラルネットワーク）

## 学会からのご案内

### 1. 日本サンゴ礁学会第3回大会の発表について

1) 口頭発表について：発表時間は質疑を含めて20分/件です。プログラム順に発表してください。発表にはOHP、35mmスライド、プロジェクタが使用できます。なお、プロジェクタ使用者に持ってきていただくのは「DSUB-15ピンの口を持ったパソコン」のみでケーブルは不要です。発表に先立ってプロジェクタ使用者は休憩時間等に接続動作を確認して下さい。また、念のため予備のOHP等の持参をお勧めします。

2) ポスター発表について：9月23日10:30~12:30の期間に会場内で各自の展示ポスターの横で参加者に説明してください。幅90cm×高さ180cmのポリスチレン加工板製パネルを9月22日夕方から23日14時までポスター発表会場に設置しますので、指定のパネルに見やすく各自でお貼り下さい。セロテープ等ではポスターをポリスチレン加工板製パネルに貼れませんので、針の長いピン（20~25mm）を会場に用意します。発表終了後、23日14時までポスターを撤去して下さい。

### 2. 日本サンゴ礁学会メーリングリスト[sango]について

日本サンゴ礁学会メーリングリスト[sango]には1998年5月の開設以来160件を超えるmailが寄せられ、皆様のお役に立ちつつあります。なお、2000年4月以降サーバーの変更に伴い、アドレスが変更になりましたので、ご注意下さい。

[sango]への投稿：sango@sys.eps.s.u-tokyo.ac.jp

[sango]管理者への質問：sango-admin@sys.eps.s.u-tokyo.ac.jp

既に登録されている方で、本メーリングリストに対する投稿・登録・離脱などに関する情報が必要な方は、majordomo@geogr00.eps.s.u-tokyo.ac.jp あてに、署名・タイトルをつけず、本文中に **intro sango** と入力してメールをお送り下さい。関連情報が返信されます。

# 国際サンゴ礁シンポジウムの活動

日本サンゴ礁学会が2004年の第10回国際サンゴ礁シンポジウムの沖縄誘致を目指して誘致委員会を設置して活動を開始したことは、ニュースレター7号で御報告しましたが、その後、2000年10月のバリの第9回国際サンゴ礁シンポジウム会場で次回(2004年)の開催候補地として宣伝活動を行うため活発な作業が進められています。以下では誘致委員関連のmailの一部を引用して、その活動状況をご報告します。また、主要な関連mailをarchivesとしてweb siteに掲載する方向で検討中です。

## 誘致計画書(サイエンスプラン)の内容

1. 表紙
2. 誘致計画の概要
3. 1998年の白化現象
4. 日本のサンゴ礁研究の歴史
5. 学会の概要
6. 沖縄の都市とサンゴ礁
7. 人間活動とサンゴ礁に対するダメージの相関
8. 科学的な話題1: サンゴ礁生態系の恒常性と崩壊
9. 科学的な話題2: サンゴ礁生態系が成立するための条件
10. 科学的な話題3: 物質循環からみたサンゴ礁生態系の恒常性
11. 科学的な話題4: サンゴ礁と人間社会
12. 科学的な話題5: 人間-サンゴ礁共存系における人為的インパクトと対応戦略

詳細は左記URL 参照: <<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jcrs/ICRS/>>

## 国際サンゴ礁シンポジウム誘致委員会議事録

### 【国際サンゴ礁シンポジウム誘致委員会議事録】

- 日 時: 2000年6月3日(土) 11-15時
- 場 所: 東京大学理学部5号館605室
- 出席者: 工藤、山里、近森、中森、鈴木、中井、保坂、堺、山野、茅根(敬称略)

1. 作成するべきものとその性格、責任者と作成日程を以下の通り確認した。

- 1) サイエンスプラン  
(理念とシンポジウムの内容を示したもの): 土屋・中森
- 2) 実行プラン  
(誘致活動のスケジュールと分担、見通しを示したもの): 工藤
- 3) 企画書  
(国内で支援団体・企業・官庁への説明のために使う): 中森・堺
- 4) パンフレット  
(バリのブースで宣伝のために配布する英文・写真付き): 中井
- 5) 提案書  
(ISRS に提出する公的な提案書): 土屋ほか

サイエンスプランについては、すでに土屋より原案がでている。先進国でやることの意義(科学技術)、次世代に何を伝えるか、Global Change、アジアへのフィードバックなどを、もう少し強調してはとのコメントがでた。これについては、すでに4/28付けメールで土屋よりコメントを求めるメールが流れているので、それへの返信として直接メールする。

2. 誘致活動の収支見積もりについて、中井より説明があった。  
収入: 600千円(内訳: Tシャツ販売(販売収入1800千円-製作・発送費1200千円)) 支出: 1030千円(内訳: パンフレット作成・発送430千円、ブース用パネル180千円、国内旅費120千円、Done 氏旅費300千円(旅費には500千円必要。残り200千円を9月の公開シンポジウムで支出する)。これに対して、パンフレットの郵送は、ISRS 評議員と次期大会投票権者あわせて50名に絞り(原案1000名)、あとはバリのブースで配布する。Tシャツの発送費は購入者実費負担とするなどのコメントがあった。それでも、数10万円は集めないとならない。

3. Tシャツの作成状況について、堺より説明があった。(一部削除)

4. 支援については、提案書では「環境庁、科技庁、文部省、沖縄開発庁などの共催・支援が見込まれる(必要に応じて、環境庁はサンゴ礁の保全について・・・などの活動を展開しておりなどの説明を加えて)」程度の文言でよいだろう(実行プランでは、もう少し踏み込んだ見通しを書くが)。山里より、沖縄開発庁、環境庁、沖縄県、名護市などがポジティブである状況が説明された。名護の協力が得られる場合、サミット会場を使うオプションもある(当面はコンベンションセンターとして進める)。会議業者も、沖縄コンベンションビューローという選択もある(山里>茅根に担当者を連絡する)。いずれにしても、企画書が必要!

5. バリでのプレゼンは、土屋委員長にお願いするのが適当。

6. 実際の開催の際に力になる、若手研究者との懇談を行なった(波利井、梅沢、高木)。これまでの経緯を説明した。若手のレヴェルで情報交換を密にし、今後も積極的に学会の一員として関わって意見をあげてほしい。大会の支援体制はもちろん、科学プログラムにもどんどん意見をあげてほしい。国際サンゴ礁研究学生セッションなどおもしろい。国内の学際的な若手の交流を構築することが先決。当面は山野がノードになるが、若手が直接誰かを誘致委に参加することを歓迎する。

7. 7月1日評議員会としたのは、茅根の勘違い。7月1日は、誘致委員会会合と2000年大会実行委員会。評議員会は、9月21日(慶応大学)。誘致委員会を、一度沖縄で開くべきである。

### 8. その他

誘致のための会計は、別に作る。誘致に関するメールアドレスは、当面「JCRS, seysuzu@ipc.shizuoka.ac.jp, saburo@amsl.or.jp, k-sakai@tritoninc.co.jp」とする。これをサブMLアドレスにする(東大で)。沖縄での開催が決まったら東京でもサテライトシンポジウム等を開く(官庁の支援取り付けにも有効)。

## 編集後記

今回は日本サンゴ礁学会第3大会を中心に発行します。なお、上記、国際サンゴ礁シンポジウム誘致活動を支援するためのオリジナルTシャツの広告を裏面の広告に掲載しましたので、皆様奮ってご協力下さい。



日本サンゴ礁学会ニュースレター  
Newsletter of Japanese Coral Reef  
Society Vol. 8

2000年8月31日発行

- ▲編集・発行人/野崎 健
- ▲発行所/日本サンゴ礁学会
- ▲事務局/茅根 創 <[kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp)>  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院  
理学系研究科 地球惑星科学専攻
- Fax: 03-3814-6358



# JCRS 2004年 国際サンゴ礁 シンポジウム

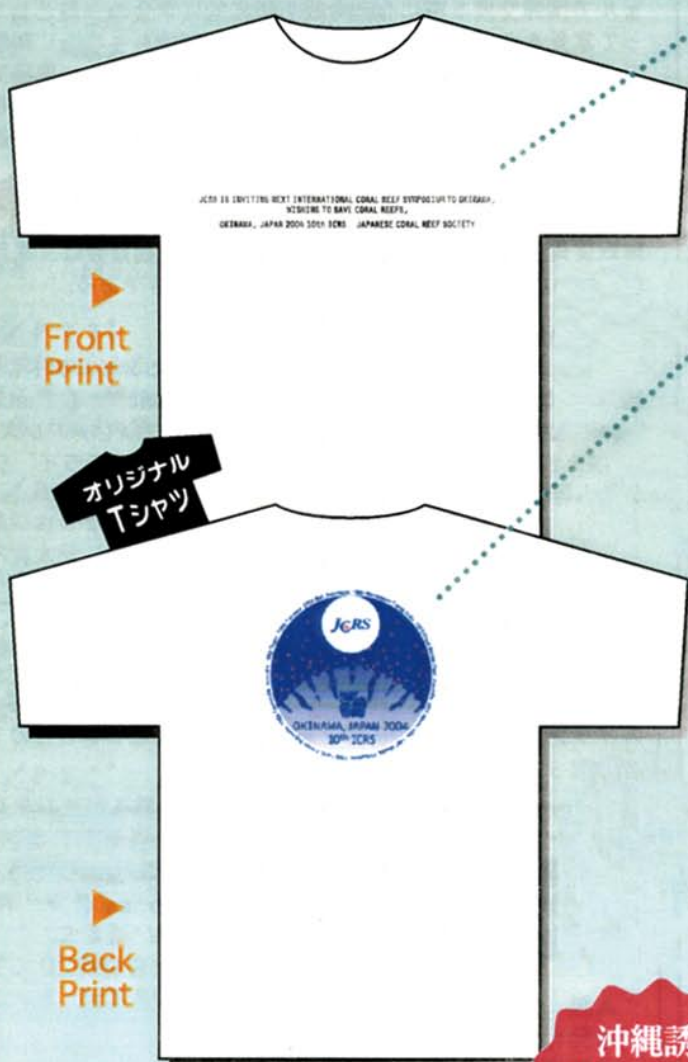
沖縄誘致 キャンペーン



JCRS IS INVITING NEXT INTERNATIONAL CORAL REEF SYMPOSIUM TO OKINAWA,  
WISHING TO SAVE CORAL REEFS,  
OKINAWA, JAPAN 2004 10th ICERS JAPANESE CORAL REEF SOCIETY



●このオリジナル  
Tシャツには  
サンゴの産卵と  
シーサーがデザイン  
されています。  
なお、サイズはL版のみです。



Front  
Print

オリジナル  
Tシャツ

Back  
Print

●生地：チャコールグレー、綿95%、ポリエステル5%

沖縄誘致  
キャンペーン

サンゴ礁を護ろう！  
21世紀の子どもたちのために！

第9回 国際サンゴ礁シンポジウムが2000年10月インドネシアのバリ島において、開催されます。この大会は4年に一度世界中のサンゴ礁研究者やその関係者が集まる大規模なものです。JCRS（日本サンゴ礁学会）は、わが国のサンゴ礁研究の発展と21世紀に美しいサンゴ礁を護り残していくことを願い、2004年の次回（第10回）大会を沖縄に誘致する活動を進めています。

そこで、誘致活動の一環として誘致支援オリジナルTシャツを作成しました。皆様に国際シンポジウムの誘致活動をご支援いただくために、このTシャツを頒布し、収益を誘致活動資金として活用する計画です。趣旨をご理解いただき皆様のご協力をお願いいたします。

頒布価格：2,000円  
送料：400円

（宅配便、ただし、沖縄・奄美地区、伊豆諸島、小笠原諸島は申込確認の際お知らせします）

購入希望は必要事項を下記のTシャツ販売事務局までFAXまたはメールにてお送りください。  
販売事務局は世界サンゴ礁保護協会（WCCS）です。

世界サンゴ礁保護協会（WCCS）  
事務局・（株）トリートン  
FAX：03-5640-4513  
e-mail：wccs@tritoninc.co.jp

- 必要事項
- ① 申込者氏名、組織名、  
連絡先（電話／FAX／e-mail）
  - ② Tシャツ配送先  
（宛名・住所・電話番号）
  - ③ 購入枚数

上記事務局が申込確認しましたら折り返し、送金先及び申し込みナンバー、お買い上げ金額（送料・税金込み）をFAXまたはメールにてご連絡いたします。  
入金が確認され次第、Tシャツを宅配便にて発送させていただきます。